

世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農機実用テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農機の最新情報

Changes detected down-under
オーストラリア

オーストラリアの農機購買傾向に変化あり



オーストラリアでは、昔ながらの伝統的な農業機械の購買傾向が転換しつつある。こう話すのは、業界を代表するアナリストだ。

アグリビュー紙のアラン・カーストン氏は、オーストラリア・トラクタ・機械協会の販売データの分析に長年携わってきた。

同氏はメルボルンで行なわれた当協会の会合で、購入パターンはより広がりを見せていると見解を示した。市場における売買を決定付ける同国小麦のシングルデスク制度が廃止された。この動きはカナダの独占的販売体制の終焉に酷似しており、小麦の生産者による直接販売に大きく変化の道を開くものだ。農場の貯蔵施設への投資も大きく増加しており、これらの新たな変化によって農家は機械を売却する時期を自ら選択するようになった。したがって同国の農機産業は下半期の注文行動に柔軟に対応する必要があるだろうと付け加えた。コンバインハーベスタ部門ではすでにこの傾向が見られているという。

「また、耕うん機を含む高額商品の注文も下半期にずれ込むことになるだろう」2012年後半には、これらの商品カテゴリに良い結果がもたらされると予想されている。「以前は耕うん機が高額商品だとは思わなかったが、作業幅の広い播種機や大容量の真空播種機は今では50万豪ドルもする。これらの高額な買い物に対して農家は静観的な態度をとるものだ」と加えた。

農家におけるキャットシユフローの変化を考えると、同国の高額な農機販売メーカーにおける課題は、農場の新たな注文計画に対応できるように多様な機械の在庫をうまく調整することと言えそうだ。



オーストラリア・トラクタ・機械協会のアラン・カーストン氏によれば、同国の農家が機械を購入するタイミングに変化が起きているという。

Pedal the produce to market

米国

自転車で農産物を運ぶ



欧州の多くの地域と違って、米国ではレクリエーション以外で自転車を活用することは少ない。

しかし、同国中部にあるイリノイ州立大学の持続的農産物の農場長であるザック・グラント氏は、ボラティアラとともに学生食堂から数マイルしか離れていない場所で農産物を生産、販売している。まさに新鮮とはこのことだ。農産物は農場で洗ってパッキングし、「フォールディングファーム（折りたたみ式農場）」と呼ばれるサイクルトレーラーで運搬する。このトレーラーは大学で建築を専攻する学生のアイデアだ。農産物を洗ってパッキングする作業場を設計した際に考え出された。彼らが所有していた小型ワゴン車では、農産物を積んだり降ろしたりするのが面倒であった。そこで、彼らは荷積みが簡単で売り場の陳列にも利用できるトレーラーの設計を思いついたのである。「我々のフォールディングファームは、世界初の自転車によるけん引式で陳列もできる農産物販売所に違いない」とグラント氏は説明する。

重さは約90kg。折り畳み農場はおよそ136kgまで運搬することができる。Y字ヒッチでトレーラーが自転車につながら、必要があればどこにでも移動可能だ。売り場に到着するとトレーラーが商品を並べる棚や2倍のスペースのテーブルに変身する。

この取り組みは、農業・消費者・環境科学、エンジニアリング、グラフィックデザイン等の学部とのパートナーシップのおかげでこれまで発展してきた。学生食堂も学生に提供するための新鮮野菜を購入してくれるので定期的で確実な需要がある。



イリノイ州立大学へ新鮮野菜を届けるのは、自転車によるけん引型「フォールディングファーム（折り畳み式農場）」。



Horsch gets into the African act
南アフリカ

独ホーシュ社、アフリカ市場へ参入



ホーシュ社は、レムケン社、アマゾン社に続いて競争の激しい南アフリカの農業機械市場に挑戦する新たなドイツの企業だ。地元の販売業者であるテラティル・インブルメント社は最近、北西地方カールトンヴィル近郊で「Boedag」と呼ばれるファーマーズ・

デイを開催した。関心を持った農家の来場者数は予想をはるかに超え、実演された技術の質の高さに夢中になった。テラティル社の共同設立者は同国での農業経験が豊かな生産者たちで、彼らの目的は最新技術を用いた栽培技術を顧客に提供することである。

これを念頭に置いて、ホーシュ社は彼らの特定のニーズに十分応えられるだけの実力を示した。テラティル社のサレル・ハスブルック氏によれば、ホーシュ社の播種機の中でも特に条耕起のFocusシリーズとMaestro SWの12条、24条型がこの地域に適しているようだ。

条耕起播種機のFocusシリーズは、一連の動きがワンパスで行われるように設計されている。条間の残渣物を取り除いて、土をほぐし、耕した場所に肥料を投入して播種する。条耕起用のTeragridタイプは、前作の条間を400mmの深さまで耕し、異なる深さの上下2カ所に同時に肥料を投入する。トウモロコシ用の精密播種機は南アフリカ市場向けに特別に開発され、菜種、小麦、大豆、ヒマワリの播種にも利用できる。

テラティル社はMaestro SWシリーズの実演も行なった。8条、12条、24条型があり、15km/hの高速作業でも正確な播種ができるという。SWシリーズのホッパー容量は肥料用が7000ℓで、種子用が2000ℓ。

注：条耕起播種は簡易耕起方法のひとつ。



ホーシュ社の条耕起播種機Focus TDシリーズは荒れた土地でも、前作のトウモロコシの残渣物の上に直接播種できる。

All power to the horse
オランダ

「馬力」の復活



ベルギー人はゆったりと、おらかな生き方をするイメージが強い（少なくともオランダ人はそう思っている）。農業界においても、ベルギーで開催される農業展示会の家族向けの企画はよく知られている。オランダやその他欧州北部の国々には、機械化、家畜、農業機械といった特定の人々を引きつける技術的な展示テーマにこだわる傾向がある。

一方で、ベルギーの展示会は、機械から、貯蔵、建築キット、耕作地、野菜栽培、林業、環境、芝生と園芸、リサーチと財務、家具に至るまで多彩であることを好み、子供向けのアトラクションにまで取り組んでいる。

ベルギー南東部で開かれた2012年リブラモン・シヨールで目立っていたのは、馬駆動の脱穀粉砕機であった。馬は、円を描くように歩くのではなく（これには当然大きなスペースが必要）、木製の薄板にチェーンの付いた傾斜のある床面を昇って粉砕機を回して作動させる。

前述のように、ベルギーの農業展示会は家族みんなが楽しめる内容になっており、これにいい食べ物、ビール、ワインがあれば、大抵遅くまで続くという。



ベルギーの農業展示会は、家族全員で楽しめるイベントとビジネスイベントの二役を果たしている。